

2021年8月4日
 千代田化工建設株式会社
 総務部 IR・広報・CSR セクション

**2022年3月期第1四半期決算説明会(電話会議)質疑応答要旨
 (2021年8月2日開催)**

2021年8月2日に開催致しました2022年3月期第1四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

	質問	回答
1	完成工事総利益率が通期業績予想を下回っている理由は。	地球環境分野は再生計画の策定 <u>後</u> に成約した案件が主体で、再生計画後にリスク・採算管理を徹底した結果、リスクに見合った収益が確り確保出来ている。 一方、エネルギー分野は再生計画の策定 <u>前</u> に成約した大型案件が含まれており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている案件もあることから、完成工事総利益率が低くなっている。
2	今回、再生計画の策定前、策定後の成約案件別に完成工事総利益率は開示されていない理由は。	完成工事総利益 62 億円の内訳は以下の通り。 ① 再生計画策定 <u>前</u> の成約案件:10 億円 ② 再生計画策定 <u>後</u> の成約案件:52 億円 再生計画策前と策定後の成約案件別の完成工事総利益の開示は今回から取り止めた。理由は以下の通り。 ① 本年5月に再生計画をアップデートし、再生計画開始後2年間の定量面の進捗を総括したこと。 ② カタール LNG 案件の利益貢献が始まり、足元でも利益の8割強は再生計画策定 <u>後</u> の案件が貢献している。このため、再生計画策定前と後の成約案件別に分析する意味がなくなっていること。
3	バランスシートの動きについて	2021年3月期末(3月末)と2022年3月期第1四半期末(6月末)を比較すると、現預金△289億円、JV持分資産+166億円を合算で△123億円、これと営業負債△114億円が見合っており、バランスしている。プロジェクトの遂行のステージに応じた通常の動きになっている。

	質問	回答
		(本年度より新たな会計ルールである「収益認識に関する会計基準」が適用となり、従来の「未成工事受入金」は「契約負債」に置き換わっているが、単なる表示変更であり対象内容は同一。)
4	未払金が増加している理由は。	<p>未払金の増加は、イクシス LNG 案件における顧客との係争に関わる特別損失に対応するもの。</p> <p>今般、顧客との協議の進展を踏まえて、係争対象取引(債権・債務)のリスクを再評価し特別損失を計上、自己資本の減少を招いたが、これと同時に、負債の部では、顧客との係争を一括して解決するとの前提で、未実現の費用を未払金として計上した。当該未払金は、未実現費用の顕在化あるいは消滅に合わせて随時減少していくことになる。</p> <p>なお、特別損失は評価性費用として認識するものであり、キャッシュアウトは伴わない。</p>
5	工事損失引当金が増加している理由は。	遂行中案件における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対して予防的に備えたもの。
6	インドネシアでコロナ感染が拡大しており、タンゲ-LNG の状況は。	<p>インドネシアでは新型コロナウイルス感染症が拡大しているが、関係者の健康と安全を最優先し、顧客と協力して、現場ワーカーの人数の調整も含めて、必要な対応を速やかに取りながら、慎重に建設工事を進めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大によるスケジュール、コストの影響についてフォースマジュールの枠組みで顧客と協議を継続しており、引き続き遂行案件への影響をミニマイズしていく。現状では大きな影響が出ることは考えていない。</p>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。

経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。